

平成28年度入試【推薦入試Ⅰ】

小論文

(総合理工学部 建築・生産設計工学科)

注意

- 1 問題紙は、指示があるまで開いてはならない。
- 2 問題紙 2ページ、解答用紙（下書き用紙も含む）4枚である。
指示があってから確認し、解答用紙（下書き用紙も含む）の所定の欄に受験番号を記入すること。
- 3 解答は、すべて解答用紙の所定のところに記入すること。
- 4 解答用紙（下書き用紙も含む）は持ち帰ってはいけない。
- 5 問題紙は、持ち帰ること。

平成28年度推薦入試Ⅰ

建築・生産設計工学科 小論文

問 題 訂 正

1ページ

【問題1】

[誤] 建設投資は資料図1に示すように戦後のインフラ整備、住宅建設とともに増え、バブル期には年間80兆円を超えた。これはヨーロッパ全体の建設投資額より多い金額であった。

[正] 建設投資は資料図1に示すように戦後のインフラ整備、住宅建設とともに増え、バブル期には年間80兆円を超えた。これはヨーロッパ全体の建設投資額より多い金額であった。

補 足 説 明

1～2ページ

【問題1】

問題文及び図に記載されている「就業者」と「就労者」は、同じ意味です。

建築・生産設計工学科 小論文 問題

【問題 1】

建設投資は資料図 1 に示すように戦後のインフラ整備、住宅建設とともに増え、バブル期には年間 80 兆円を超えた。これはヨーロッパ全体の建設投資額より多い金額であった。90 年前半のバブル期後、徐々に右肩下がりに推移したが、2010 年より増加に転じている。一方、資料図 2 に示すように、建設業就業者もバブル期を境に右肩下がりに転じている。またその就業者の年齢は資料図 3 に示すように全産業に比べて若者の就業者数は少なく、逆に高年齢の就業者が目立つ。

これらの図を読み取り、近い将来（10 年後－平成 35 年頃）の建設投資や就労者の予想を行い、どうあるべきかあなたの考えを 600 字以内で論述しなさい。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

資料図1 建設投資の推移（1962年～2014年）

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

資料図2 建設業就労者数の推移

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(出典) 総務省「労働力調査年報」
資料図 3 建設業就労者の年齢（高齢化）

(資料図 1～資料図 3 出典：(一財)建設経済研究所 HP から)

【問題 2】

あなたが当学科でさまざまなことを勉強したとして、卒業して十年あるいは二十年たった時の自分の将来ビジョン（将来設計図）を、その根拠を含めて 600 字以内で論理的に記述すること。

（願望ではなく、そのためには何をいつどのようにしなくてはいけないかを考えて記述のこと。）